

筑波大社工 丸山義皓

過労は市場賃金率をわる限界労働収益生産の低位と理解される。賃金雇用機会の不足に起因し、賃金収入を補うためにおこる過労と家事サービスの外来供給の不足に起因し、それを補うためにおこる過労との相違を分析し、解決策への示唆をもとめる。

分析方法には、家計内生産をふくむ勤労者家計モデルの主体均衡をもちいる。稼働成員数を α 、被扶養成員数を β 、成員当り賦存時間を t 、余暇時間を e 、被扶養成員時間の効率換算係数を k とすると、家計の労働時間は次のように表される。 $L_s^* = (\alpha + \beta k)t - (\alpha + \beta)e$ 。他方、家計員が消費する財、サービス q は、一部外来供給 H によってみだされるほか、家計員によって生産され、その産出は、労働時間 L 、購入消費資材量 K 、および技術水準 c の凹関数である。家計は家族厚生 W を最大化するよう、家事財、サービスの生産、消費選択および労働供給の決定をおこなう。家族厚生は、余暇時間および消費財量の準凹関数である。 $W = (\alpha + \beta)U(e, q)$ 。

このような家計において、家事財、サービスの外来供給あるいは賃金雇用機会が制限されるとき過労が発生する。下にみるとおりである。 H^* , E ; v , μ は、外来供給および賃金雇用機会の上限ならびに関連ラグランジュ乗数、そして、 w , p , r ; λ は、賃金率、消費財および資材価格、ならびに予算制約に関するラグランジュ乗数である。

$$(1a) \lambda p c Q_1(L, K) - (\lambda - \mu)w \leq 0,$$

$$(1b) (\lambda + v) p c Q_1(L, K) - \lambda w \leq 0$$

$$(2a) p c Q_2(L, K) - r \leq 0$$

$$(2b) (\lambda + v) p c Q_2(L, K) - \lambda r \leq 0$$

$$(3a) U_1(e, q) - (\lambda - \mu)w \leq 0$$

$$(3b) U_1(e, q) - \lambda w \leq 0$$

$$(4a) U_2(e, q) - \lambda p \leq 0$$

$$(4b) U_2(e, q) - (\lambda + v)p \leq 0$$

$$(5a) p Q_s + w L_s - r K \geq 0$$

$$(5b) p Q_s + w L_s - r K \geq 0$$

$$(6a) w E - w L_s \geq 0, L_s = (\alpha + \beta k)t - (\alpha + \beta)e - L$$

$$(6b) p Q_s + p H^* \geq 0, Q_s = c Q(\cdot) - (\alpha + \beta)q$$